

「幸福」の言説分析

—— 幸福はいかに語られているか ——

古 賀 豊

1. 問題提起

近年の出来事を振り返ってみると、2008年9月のリーマン・ブラザーズの破綻（いわゆる「リーマン・ショック」）と世界的金融危機、2009年（平成21年）9月の政権交代、さらに、2011年3月11日の東日本大震災（福島原発事故）と、まさに歴史的と言える事象が次々に起こっている。

このような国内の状況の中で、従来はあまり採り上げられることのなかった「幸福」が、政策課題として採り上げられるようになってきている。

一方、この幸福というものは、非常に捉えがたいものである。人それぞれで異なっているのに加え、個人でもその時々で異なった様で現れる。そもそも自分の幸福の程度を明確に決定する基準が自分の中にある場合もあり、ともすれば、本人においてすら、自分がはたして幸福なのか、あるいは、どの程度幸福であるのかといった問いに答えが持てなかつたりする。

本稿の目的は、この「幸福」という概念・感覚が、どのように認識され、語られているのかを、一般の人々の言説を元に検討し、その複雑で繊細な有様を解明することにある。

政策課題としての「幸福」：幸福と新しい公共

実際の分析に入る前に、まず、政策課題としての「幸福」への取り組みが、どのような経緯・背景で登場してきたのかを確認しておくことにしたい。

政策課題としての「幸福」への取り組みが、最初にはっきりとした形を見せたのは、2009年（平成21年）12月30日に閣議決定された「新成長戦略（基本方

針)」においてである。そこでは次のように述べられている。

数値としての経済成長率や量的拡大のみを追い求める従来型の成長戦略とは一線を画した。生活者が本質的に求めているのは「幸福度」(well-being)の向上であり、それを支える経済・社会の活力である。こうした観点から、国民の「幸福度」を表す新たな指標を開発し、その向上に向けた取組を行う。¹

さらに、翌2010年(平成22年)6月18日に閣議決定された「新成長戦略」(『『元氣な日本』復活のシナリオ』と副題が付けられている)においては、より具体的に、下記のように述べられている。

日本政府としては、幸福度に直結する、経済・環境・社会が相互に高め合う、世界の範となる次世代の社会システムを構築し、それを深め、検証し、発信すべく、各国政府および国際機関と連携して、新しい成長および幸福度(well-being)について調査研究を推進し、関連指標の統計の整備と充実を図る。このことにより、新しい成長、新しい環境政策、新しい公共を、一体的に推進するための基盤を構築する。²

このように「新成長戦略」では、「新しい公共」という概念の下に、その一環として幸福度を表す指標の開発が位置づけられている。そして、『『幸福度』(well-being)の向上』は「数値としての経済成長率や量的拡大のみを追い求める従来型の成長戦略」とは別の方向性を持つものとされる。

それでは、この「新しい公共」とは、どのようなものとされているのだろうか。

¹ 「新成長戦略(基本方針)」, p.28

² 「新成長戦略:『元氣な日本』復活のシナリオ」, p.53

「新しい公共」が目指すのは、一人ひとりに居場所と出番があり、人に役立つ幸せを大切にできる社会である。そこでは、国民の多様なニーズにきめ細かく応えるサービスを、市民、企業、NPO等がムダのない形で提供することで、活発な経済活動が展開され、その果実が社会や生活に還元される。「新しい公共」を通じて、このような新しい成長を可能にする。政府は、大胆な制度改革や仕組みの見直し等を通じ、これまで官が独占してきた領域を「公（おおやけ）」に開く。³

ここでは、「これまで官が独占してきた領域を『公』に開く」という表現が用いられている。この『『公』に開く』とは、官に代わり、「市民、企業、NPO等」が新たな担い手になるということであろう。

このような幸福度の指標化を具体的に推し進めたのが、内閣府に設置され、2010年（平成22年）12月22日から2011年（平成23年）8月29日まで計4回にわたって開催された「幸福度に関する研究会」である。

幸福度に関する研究会による「幸福」度の試案では、まず主観的幸福感を中心に据える。さらに、それを支える要因を下記の3つのカテゴリーで捉え、

- 経済社会状態 — 基本的ニーズ、住居、子育て・教育、雇用、社会制度
- 心身の健康 — 身体的健康、精神的健康
- 関係性 — ライフスタイル、家族等とのつながり、地域とのつながり、自然とのつながり

これに持続可能性を加えた全体を幸福度としている。⁴

幸福度に関する研究会による幸福度指標試案は、幸福に関係するさまざまな要因をうまく整理・統合しており、その点では評価できるものであるが、とはいえ、そもそも幸福度というものが、果たして、この試案で十分に捉えきれる

³ 「新成長戦略：『元気な日本』復活のシナリオ」, pp.50-51

⁴ 「幸福度に関する研究会報告：幸福度指標試案」

かについては、疑問の余地があることであろう。

以下では、冒頭で述べた幸福の複雑で繊細な有様を捉えるために、幸福に関する言説の分析を行っていく。

2. 分析手法および分析対象

実際の言説を分析するにあたり、本稿では、「潜在意味分析」という手法を用いる。そこで、まず、この潜在意味分析について、その概略を記しておくことにする。

潜在意味分析（LSA: Latent Semantic Analysis）とは

潜在意味分析（LSA : Latent Semantic Analysis あるいは LSI : Latent Semantic Indexing）とは、大規模な文字情報に対して、特異値分解（SVD : singular value decomposition）という方法を用いて、語や文（ここでは、文あるいは文書と表記しているが、正確には、文、段落、章、節、文書など、複数の語を束ねる単位をさし、どのような単位を設定するかは任意に決定できる）相互間の関係を算出する手法である。分析結果として、語および文書にそれぞれ主成分分析の主成分あるいは因子分析の因子に相当する列ベクトルと、それを用いて算出される各々の語および文書間の相関値（この相関値は類似度とも呼ばれ、通常、コサイン相関値が用いられる。コサイン相関値は1から-1までの値をとり、1がもっとも類似していることを示し、-1がもっとも類似していないことを示す）を得ることができる。⁵

実際の例と解釈上の留意点

ここでは、LSA という分析手法の数学的な詳細を述べるよりも、実際の例を

⁵ 詳しくは、次の資料を参照のこと。Deerwester, S., et al., 1990. “Indexing by latent semantic analysis”, *Journal of the American Society for Information Science*, 41, pp.391-407.
Landauer, T. K., et al., 1998. “Introduction to Latent Semantic Analysis”, *Discourse Processes*, 25, pp.259-284.

元に、LSA という分析手法がいかなる特徴を持つものであるのか、そして、その結果を解釈する上で留意すべき点は何なのかを、確認しておくことが有益であろう。以下、それを試みる。

まず、LSA において、実際に入力される情報は、それぞれの文に含まれる語のみであり、語順や文法的な要素はすべて無視される（このため、原則的に、言語を問わず応用可能となる）。

さらに、LSA では、各語の意味に関する情報を事前に持っているわけではなく、入力される情報はそれぞれの文中にどのような語が含まれるかという情報のみである。つまり、LSA は、用例のみを元に、それぞれの語間や文間の関係を算出する手法であると言える。

ここで、LSA の実際の例を示し、その結果を解釈する上で留意すべき点を示す。

例として、下記の4つの文に対して（これらの文は人為的に作成したものであるため、やや不自然であるが）LSA を適用し、各語間の類似度（コサイン相関値）を算出してみる。

- a. ケーキは甘い。子供は好き。
- b. アイスクリームは甘い。子供は好き。
- c. カレーは辛い。大人は好き。
- d. わさびは辛い。大人は好き。

ここで「甘い」と「子供」との類似度は1となる。これは、「甘い」という語が存在すれば同じ文中に必ず「子供」という語が存在しており、「甘い」という語が存在しなければ同じ文中に「子供」という語も存在しないことから、類似度が1となることは直感的に了解可能である。

一方、LSA では「ケーキ」と「アイスクリーム」の類似度も1となる。見てわかるように、「ケーキ」と「アイスクリーム」は同じ文中には一度も出現していない。「カレー」と「わさび」の関係も「ケーキ」と「アイスクリーム」と同様であるが、こちらも類似度は1となる。

実は、これがLSAの特徴であり、利点である。つまり、LSAでは、語の意味そのものや共起関係のみを扱っているわけではなく、扱っているのは文脈（つまり、その語が含まれる文に含まれるほかの語）である。そして、類似度が表しているのは、「同じ文脈をどのくらい共有しているか」あるいは「どのくらい似た文脈を共有しているか」である。そのため、LSAで算出される類似度は、当該の二つの語が一つの文に同時に出現している頻度や割合を表すものではないことに留意しておく必要がある。

分析対象：新聞の投書欄

「幸福」に関する言説の検討にあたり、分析対象として選んだのが、新聞の投書欄である。新聞の投書欄の文章は、新聞社の投書欄担当者の選別を経ていることや、投稿者が特定の層に偏る傾向にあることなどに留意しておく必要はあるが、一般の人々の言説の代表的な事例とみなすことができる。

本稿で用いたLSAの入力データを作成する具体的な手順は、以下のとおりである。

- 朝日新聞のデータベースサービスを利用し、投書欄に載せられた投稿のうち、2007年1月1日から2012年1月1日までの下記の検索語を含むものを取得した。

「幸福」、「幸せ」、「満足」、「満ち足りる」、「愉快」、「楽しい／楽しさ／楽しさ」、「不幸」、「不幸せ」、「不愉快」、「不快」

- 次に、各投稿の上記の検索語を含む段落以外の文を除外したものを対象に、mecab⁶を利用して形態素解析を行い、その結果から、下記の語をLSAの入力データとして採用した。（つまり、接続詞、副詞、連体詞、助動詞や助詞などは省かれている）

a. 品詞分類が「名詞」である語のうち、品詞細分類が「自立」である語

⁶ Kudo, Taku and NTT, 2008. “MeCab: Yet Another Part-of-Speech and Morphological Analyzer”, version 0.97.

- b.品詞分類が「形容詞」である語のうち、品詞細分類が「自立」である語
- c.品詞分類が「動詞」である語のうち、品詞細分類が「一般」、「形容動詞語幹」、「サ変接続」のいずれかである語（固有名詞や代名詞が分析対象から省かれていることに注意）
- さらに、上記の語のうち、1文字の語、および、全体の出現頻度が8より少ない語を除外した。
 - 最後に、上記の手順を踏まえた後に一つの投稿で8より少ない語しか持たない投稿があった場合、それを除外した。

これらの操作の結果、分析対象の延べ語数は140440語、総語数は3487語、総投稿数は6886文書となった。

表1に、分析対象における投稿者の属性毎の投稿数を示す。また、しばしば新聞の投書欄には、同じ投稿者が何通も投稿すると言われている。そこで、投稿者の氏名と住所が一致する投稿を同一の投稿者からの投稿とみなし、投稿者毎の投稿数を算出してみたものが、表2「投稿者1人当たりの投稿数の分布」である。（第3行目を例にとって説明すると、12本投稿・掲載された者が3名おり、12本を投稿・掲載された者は投稿者全体の0.062%を占める。また、12本投稿した者の総投稿数に占める比率は0.523%となる）。

次に、全体の出現頻度の高い語を、高い順に30語示したものが、表3「出現頻度の高い語」である。また、次章では、「幸福」に関連した31のキーワードを設定して分析を行っているが、その31のキーワードの出現頻度を示したものが、表4「キーワードの出現頻度」である。

これを見ると、「楽しい」、「楽しむ」、「楽しみ」や「幸せ」といった語は、全体の中でもかなり高い出現頻度となっていることがわかる。また、ほぼ同義語と思われる「幸せ」と「幸福」では、出現頻度において、「幸せ」のほうが7倍以上多く出現していることもわかる。

表1. 投稿者の属性毎の投稿数

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国 四国	九州 沖縄	外国	計
0-9 歳	0	0	4	2	1	3	8	0	18
10-19 歳	7	7	136	141	182	118	188	1	780
20-29 歳	3	10	95	33	96	41	71	2	351
30-39 歳	4	12	125	75	195	58	85	1	555
40-49 歳	13	19	174	186	221	94	136	2	845
50-59 歳	10	17	135	230	205	113	237	3	950
60-69 歳	6	35	185	446	424	181	344	0	1621
70-79 歳	6	37	137	356	351	129	322	1	1339
80-89 歳	0	2	37	112	95	40	90	0	376
90-99 歳	0	1	6	6	11	5	17	0	46
不明									5
計	49	140	1034	1587	1781	782	1498	10	6886

表2. 投稿者1人当たりの投稿数の分布

投稿者1人 当たりの 投稿数	投稿数毎の 人数	総投稿者数に 占める比率	総投稿数に 占める比率
16	1	0.021%	0.232%
15	1	0.021%	0.218%
12	3	0.062%	0.523%
11	2	0.041%	0.319%
10	6	0.123%	0.871%
9	7	0.144%	0.915%
8	12	0.246%	1.394%
7	23	0.472%	2.338%
6	26	0.533%	2.265%
5	50	1.026%	3.631%
4	82	1.682%	4.763%
3	190	3.898%	8.278%
2	642	13.172%	18.647%
1	3829	78.560%	55.606%

総投稿者数 4874

総投稿数 6886

表 3. 出現頻度の高い語

順位	語	出現 頻度	延べ語数 に占める 比率
1.	楽しい	2783	(1.9816%)
2.	思う	2216	(1.5779%)
3.	楽しむ	2046	(1.4568%)
4.	幸せ	1854	(1.3201%)
5.	楽しみ	1731	(1.2326%)
6.	人	1535	(1.0930%)
7.	できる	1240	(0.8829%)
8.	声	1155	(0.8224%)
9.	見る	993	(0.7071%)
10.	自分	898	(0.6394%)
11.	いる	796	(0.5668%)
12.	言う	794	(0.5654%)
13.	子ども	747	(0.5319%)
14.	生活	625	(0.4450%)
15.	感じる	610	(0.4343%)
16.	満足	601	(0.4279%)
17.	読む	590	(0.4201%)
18.	心	545	(0.3881%)
19.	家族	539	(0.3838%)
20.	考える	501	(0.3567%)
21.	母	479	(0.3411%)
22.	行く	471	(0.3354%)
23.	気持ち	452	(0.3218%)
24.	聞く	435	(0.3097%)
25.	食べる	434	(0.3090%)
26.	夫	418	(0.2976%)
27.	いう	418	(0.2976%)
28.	持つ	413	(0.2941%)
29.	知る	407	(0.2898%)
30.	言葉	403	(0.2870%)
	:		

延べ語数 140440

表 4. キーワードの出現頻度

順位	語	出現 頻度	延べ語数 に占める 比率
1.	楽しい	2783	(1.9816%)
3.	楽しむ	2046	(1.4568%)
4.	幸せ	1854	(1.3201%)
5.	楽しみ	1731	(1.2326%)
9.	見る	993	(0.7071%)
10.	自分	898	(0.6394%)
12.	言う	794	(0.5654%)
13.	子ども	747	(0.5319%)
16.	満足	601	(0.4279%)
17.	読む	590	(0.4201%)
19.	家族	539	(0.3838%)
22.	行く	471	(0.3354%)
25.	食べる	434	(0.3090%)
35.	仕事	375	(0.2670%)
44.	学校	316	(0.2250%)
49.	不幸	305	(0.2172%)
53.	人生	299	(0.2129%)
61.	書く	277	(0.1972%)
63.	国民	276	(0.1965%)
70.	幸福	259	(0.1844%)
84.	不快	215	(0.1531%)
96.	勉強	196	(0.1396%)
102.	政治	191	(0.1360%)
115.	おいしい	182	(0.1296%)
155.	不愉快	143	(0.1018%)
156.	家庭	142	(0.1011%)
222.	遊び	110	(0.0783%)
651.	愉快	46	(0.0328%)
795.	労働	38	(0.0271%)
1240.	不満	24	(0.0171%)
1465.	公共	20	(0.0142%)

3. 「幸福」関連語の分析

「幸福」関連キーワードの相互関係：クラスター分析結果

前章で用意した入力データを R⁷ の *lsa* モジュール⁸ を用いて分析を行った。

まず、「幸福」関連キーワードとして、31の語を設定し、それぞれの語の関係を見るために、類似度を元に、クラスター分析を行った。その結果を、図1に示す。

なお、この図では、左端に並んだ語が階層構造を表す線により結びつけられている。語（あるい語群）を結びつける縦の短い線が左側に近ければ近いほど、両者の関係が近いことを表している。

これを見ると、まず、「不幸」と「不満」、「仕事」と「労働」、「愉快」と「楽しい」、「不快」と「不愉快」といった意味的に近い語、同義語と思われる語がもっとも関係の近いものとして位置づけられていることがわかる。また、「学校」と「勉強」、「子ども」と「遊び」、「おいしい」と「食べる」、「書く」と「読む」、「国民」と「政治」といった意味的に関連の強いと考えられる語も、それぞれもっとも関係の近い語として位置づけられている。

それを踏まえると、興味深いのが、「幸せ」、「幸福」、「満足」といった（広義の）幸福度を示すと考えられる語の関係である。この分析結果では、この三つの語は互いに近い関係にあるものとは示されていない。「幸せ」は「家庭」と結びつき、「幸福」は「仕事・労働」と結びついている。また、「満足」は「言う」、「楽しみ」、「見る」といった語と関連の強いものとして示されている。そのため、この三つの語はそれぞれ別の文脈を持っているのではないかと推測される。

この点を明らかにするために、いくつかのキーワードに絞った上で、それぞ

⁷ R Development Core Team, 2009. “R: A language and environment for statistical computing”, version 2.10.1, R Foundation for Statistical Computing.

⁸ Wild, Fridolin, 2009. “lsa: Latent Semantic Analysis”, R package version 0.63-1. なお、入力情報となる語一文書行列 M には、 $\text{lw_logtf}(M) * \text{gw_idf}(M)$ を施した上で、縮約する次元数としては、特異値の大きさなどを勘案し、50を設定した

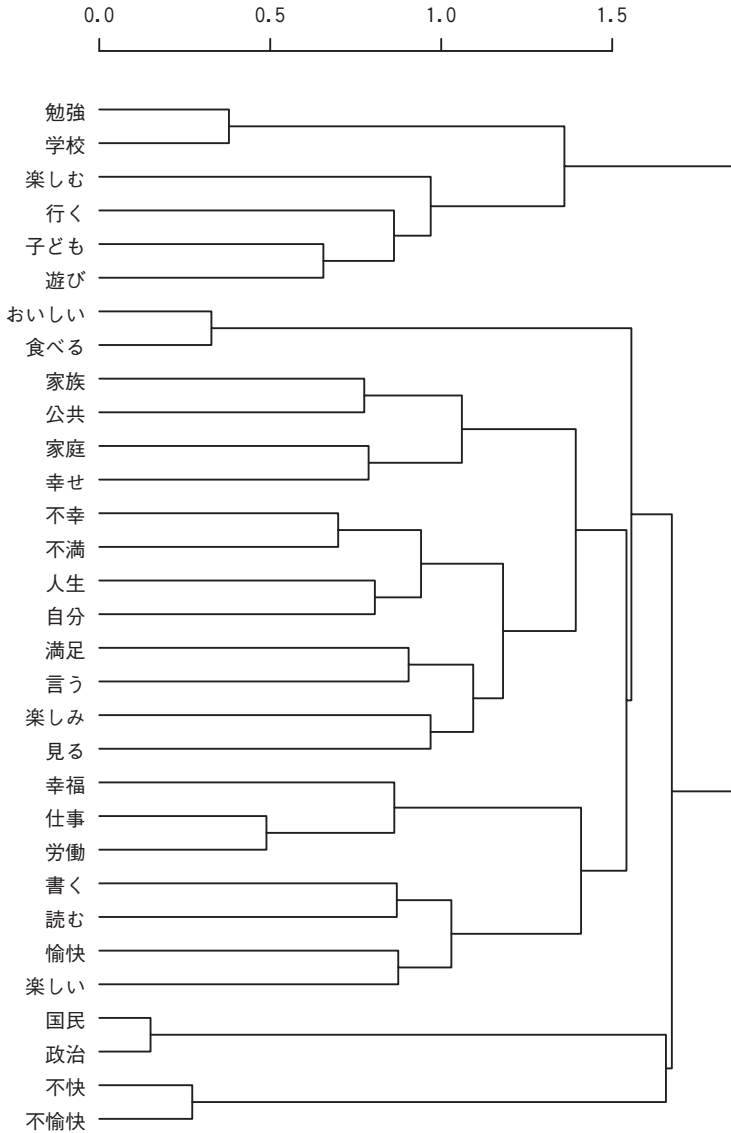


図1. 「幸福」関連キーワードのクラスター分析結果

れのキーワード毎に、類似度の高い語を示したものが、表5aおよび表5b「各キーワードの類似語」である。この二つの表では、コサイン相関値が0.5以上の語を類似語とみなしている。なお、類似語数が35を超える場合、35までを示し、後は省略してある。この二つの表では、類似語数が多くあるということは、それらの語が特定の文脈で使われる傾向にあることを意味する。また、類似語数が少ないということは、それらの語が幅広い文脈で使用される傾向にあることを示している。

なお、図1および表5の解釈として注意すべきなのは、今回の分析方法では、その文に否定を表す語が含まれている場合、その語と否定を表す語が別の語として扱われているという点である。つまり、例えば、「楽しい」という語は、実際の文では「楽しくない」という表現になっている可能性があるということである。同様に、「満足」も「満足できない」、「幸せ」も「幸せではない」といった表現である可能性がある。この点について、次の節で、もう少し詳細に説明を行う。

類似語を解釈する上での留意点

この表では、例えば、「満足」と「森林」との関係がわかりにくいのが、具体的な文例を示すと、下のようになっている。

「ちまちました行動で森林破壊が止まるのか、自己満足に過ぎないのでは」
「森林浴を楽しみ、ハイキングに満足している」

前者の文は、「自己満足的な行動では、森林破壊は止まらない」という意味であり、

自己満足 = (本当の) 満足ではない (満足の否定) ⇔ 森林破壊 (森林の否定)

という「森林」と「満足」との関係が両者が否定された上で結びついているのに対し、後者の文では「森林」と「満足」の関係がそのまま結びついている。このように前述したとおり、この分析で得られる類似語の関係は、下記のいずれの場合も考えられることに注意が必要である。

表 5a. 各キーワードの類似語 (1)

幸福 (類似語数 56)	幸せ (類似語数 3)	楽しい (類似語数 3)
人類 0.8331	かみしめる 0.6084	下手 0.5393
追求 0.8250	暮らせる 0.5198	過ごす 0.5326
GDP 0.7870	当たり前 0.5053	面白い 0.5047
尊重 0.7807		
基本 0.7777	満足 (類似語数 23)	愉快 (類似語数 17)
国王 0.7715	自己 0.8530	ダメ 0.7051
物質 0.7699	顧客 0.7540	次男 0.6890
重視 0.7554	念願 0.6625	変 0.6710
主義 0.7065	弟子 0.6530	おもしろい 0.6649
基準 0.7043	資源 0.6472	飛び交う 0.6436
生産 0.6876	惜しむ 0.6041	孤独 0.6226
生存 0.6849	ただ 0.5941	しゃべる 0.6207
起こる 0.6794	森林 0.5862	長男 0.5985
モノ 0.6708	得 0.5824	日本語 0.5975
憲法 0.6704	現象 0.5568	押す 0.5818
原理 0.6644	あきれる 0.5543	エネルギー 0.5654
先進 0.6637	感情 0.5511	龍 0.5611
定める 0.6623	柔らかい 0.5504	交わす 0.5360
増加 0.6605	確信 0.5433	わが家 0.5221
コミュニティー 0.6574	費用 0.5321	加える 0.5201
真 0.6393	生む 0.5301	高校生 0.5119
指標 0.6362	横綱 0.5274	飴 0.5017
夫妻 0.6303	自治体 0.5208	
生命 0.6080	聖書 0.5159	
信念 0.6020	探る 0.5149	
本当 0.5994	うどん 0.5079	
リーダー 0.5993	服装 0.5074	
享受 0.5936	硬い 0.5064	
来日 0.5915		
利益 0.5901	公共 (類似語数 1)	
感銘 0.5772	マナー 0.5149	
国内 0.5682		
雛 0.5639		
大国 0.5588		
西 0.5559		
⋮		

表 5b. 各キーワードの類似語 (2)

不幸 (類似語数 67)	不愉快 (類似語数 33)	不快 (類似語数 45)
最小 0.8685	不快 0.7280	知事 0.7697
財源 0.8603	疑う 0.7253	不愉快 0.7280
掲げる 0.8562	発言 0.7116	記者 0.6975
マニフェスト ... 0.8502	非常 0.6837	憤る 0.6904
責任 0.8497	指定 0.6711	喫煙 0.6651
実現 0.8351	知事 0.6556	おわび 0.6429
正常 0.8224	席 0.6376	発言 0.6409
カネ 0.8126	喫煙 0.6312	たばこ 0.6370
貧困 0.8053	急ぐ 0.6165	におい 0.6360
理念 0.7969	態度 0.6091	急ぐ 0.6345
内閣 0.7893	申し訳ない 0.6057	与える 0.6271
危機 0.7796	ためらう 0.5947	バス停 0.6230
確保 0.7792	大臣 0.5925	清潔 0.6180
総理 0.7638	趣旨 0.5735	表明 0.6073
首相 0.7426	マナー 0.5729	失礼 0.6040
恩恵 0.7279	思い 0.5725	迷惑 0.5992
打ち出す 0.7245	騒ぐ 0.5673	マナー 0.5932
拉致 0.7002	乗客 0.5524	我 0.5907
不公平 0.6972	機械 0.5501	幹事 0.5898
両国 0.6955	覚悟 0.5382	放つ 0.5765
施策 0.6933	たばこ 0.5308	乗客 0.5721
基づく 0.6858	見かける 0.5302	ためらう 0.5718
幸い 0.6843	禁煙 0.5274	吸う 0.5700
世紀 0.6788	吸う 0.5256	かける 0.5677
主張 0.6744	おわび 0.5250	落とす 0.5637
格差 0.6723	記者 0.5241	すれ違う 0.5594
失業 0.6723	うるさい 0.5203	席 0.5498
原因 0.6613	我慢 0.5112	煙 0.5497
友好 0.6596	失礼 0.5072	しかる 0.5487
強調 0.6533	乗車 0.5064	遠慮 0.5472
財政 0.6532	自体 0.5063	機械 0.5394
判断 0.6497	恥 0.5041	モデル 0.5391
会見 0.6461	バス停 0.5027	思い 0.5355
基地 0.6440		下げる 0.5337
余儀ない 0.6403		見かける 0.5217
⋮		⋮

- 語 A ⇔ 語 B
- 語 A の否定 ⇔ 語 B
- 語 A ⇔ 語 B の否定
- 語 A の否定 ⇔ 語 B の否定

また、「不愉快」と「疑う」との関係も、解釈する上で、注意が必要である。下記の文例を、「不愉快」と「疑う」の関係を表す典型的なものとしてあげることができる。

「万引きを疑われ不愉快な体験」

このように、動詞の場合、受動表現や使役表現であっても、受動や使役を意味する助動詞は省かれ、かつ、動詞の活用形は原形に変換されているため、上記の場合に加え、下記のいずれの場合の可能性もあることに注意を要する。

- 語 A (動詞) の受動／使役表現 ⇔ 語 B
- 語 A ⇔ 語 B (動詞) の受動／使役表現
- 語 A (動詞) の受動／使役表現 ⇔ 語 B (動詞) の受動／使役表現

4. 「幸福」はいかに語られているか — 大きな幸福と小さな幸福、大きな不幸と小さな不幸

最後に、「幸福」がどのように語られているのか、実際の投稿の文章を見ながら検討していく。

幸福が語られる実際の文脈

本章で採り上げる投稿を決定するために、文書行列の第1列ベクトルを y 軸に、第2列ベクトルを x 軸に設定し、図示したものが、図2「各投稿間の関係」である。この図では、「幸福」あるいは「幸せ」という語を含む投稿を \circ で、含まない投稿を \bullet で表している。

この図を見ると、 x 軸で0.00付近、 y 軸で0.00~0.02のあたりに多くの投稿が

集まっていることがわかる。一方、各軸の端に位置するものは、ある特定のタイプの典型を表した投稿とみなすことができる。ここでは、「幸福」の多様な語られ方を検討することが目的であることから、各軸の端に位置する投稿を検討の対象として採り上げることにする。図2では、採り上げる投稿をそれぞれA, B, C, D, Eで表示してある。

まず、近接した場所に位置している投稿A, B, Cを下に示す。

投稿A 「普通」という幸せを大切にしてください

今、「自分は幸せだ」と言える人はどれくらいいるでしょう。でも、ほとんどの人は幸せだと思います。

私の一日を振り返ると、朝母に起こされて学校に行き、勉強や友達とおしゃべりをして家に帰り、家族と一緒に夕飯を食べるとい、ごく普通の生活です。でも、その「普通」が幸せということだと思います。

人は何かを失ったときに、「あの時、ああすればよかった」と、とても悔やみます。それが大切なものであればあるほど、その悔いは大きくなります。人は何かを失わないと、その大切さに気付かないのだと思います。

「自分は生きるのがつらいんだ。幸せではないんだ」と、思い悩んでいる人がいるかも知れませんが、でも、絶対にそんなことはありません。自分を必要とする人、自分がいなくなれば悲しむ人がいるはずで、そんな人がいることも一つの幸せだと思います。

失ってからでは遅いと思います。自分のそばにある幸せに気付くことが大事です。そして、それを大切にしてほしいです。私は、家族がいて友達がいて笑っていられるという普通の生活に感謝して、生きていきたいと思います。(中学生, 10代, 長崎県, 2011年02月27日)

投稿B 幸せを自分で壊してないか

皆さんは自分が幸せだと思いますか、それとも不幸だと思いますか。私は自分は幸せだと思っています。

しかし、周りにいる友人は「自分は不幸だ」とか「最悪だ」と毎日のように口にしています。しかし、世界にはそんなことを言っていられないほど、毎日の食べ物に事欠くほどの生活をしている人たちも大勢います。

なぜ、現代の日本人はそんなに不幸だと思うのでしょうか。

それは、私たちが強欲で負けん気が強く、それでいて、幸せ過ぎるからではないでしょうか。恵まれすぎて毎日が同じようなことの繰り返し。ちょっとした幸せも感じる事ができなくなってしまっているのではないのでしょうか。

小さな幸せには心を動かさないのに、小さな不幸には大きく心を動かす。見えを張り、自

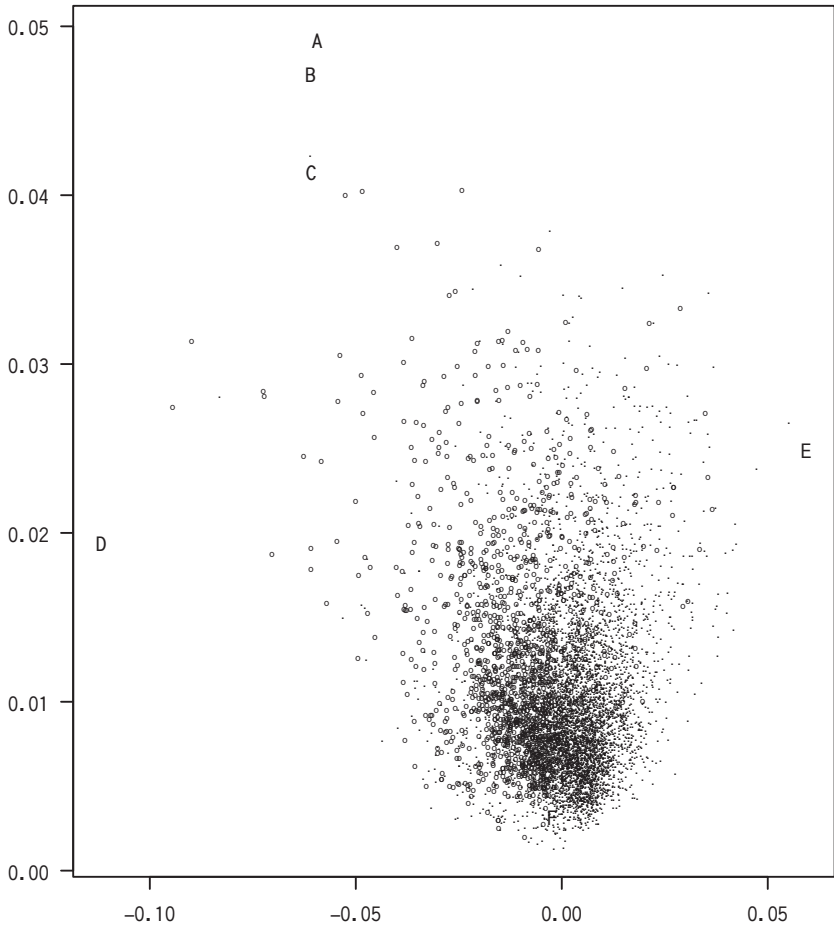


図 2. 各投稿間の関係

分をつくってしまう。しかし、その何が楽しいのでしょうか。

私にはよく分かりませんが、そういう人たちは幸せそうには見えないうし、見ていて気持ちよくありません。だから、もっと天衣無縫に振る舞って、心から人生を楽しめば、本当の幸せを知ることができるだろうし、周りの人もずっと笑っていてくれるようになるでしょう。

(中学生, 10代, 愛知県, 2007年07月15日)

投稿C 小さな幸せに感謝し生きる

貧しい国の人たちに「今幸せですか」と尋ねると、「今日のご飯が食べられたから幸せです」と答える。日本で同じことを尋ねても、「幸せです」と答える人たちは多くはない。これは私が高校生の時に先生から聞いた話だ。

きっと人は一度大きな幸せを知ると、それよりも小さな幸せを「幸せ」と考えられなくなるのだろう。しかし東日本大震災をきっかけに、今までの「当たり前」を「幸せ」だと改めて思うことができた。支えてくれる人がいる、雨風をしのぐ家がある、ご飯が食べられる、物事を学ぶことができる。それらは当たり前のことである以前に幸せなことだ。

私の住む地域では地震の影響はほとんどない。その中で私たちは大震災を忘れることなく今ある「幸せ」に感謝しながら、一日一日を精いっぱい生きていく。「幸せですか」と聞かれ、「幸せです」と笑顔で即答できるような人であふれる国になればよい、と私は思う。

(大学生, 20代, 福岡県, 2011年06月11日)

この3つの投稿内容からわかるとおり、どれも「幸せ」を主題としている。そして、投稿Aにおける「『普通』が幸せ」、「自分のそばにある幸せに気付く」、「家族がいて友達がいる笑っていられるという普通の生活」という表現にみられるように、また、投稿Bの「ちょっとした幸せも感じるができなくなって」、「心から人生を楽しめば、本当の幸せを知る」という表現にみられるように、どちらも「幸せ」の基準の変更——大きな幸せから、普通の、あるいは、小さな幸せへの変更を訴え、そして、それこそが「本当の幸せ」と位置づけている。投稿Cも同様に、「一度大きな幸せを知ると、それよりも小さな幸せを『幸せ』と考えられなくなる」、「当たり前のことである以前に幸せなこと」といった表現からわかるように、「現在は幸せを見失っている。本当の幸せは小さな幸せにある」という基本的な概念枠組みが見てとれる。

次に、 x 軸方向に正反対の位置にある投稿DとEを示す。

投稿D 「最小不幸社会」実現に期待

菅内閣が誕生し、民主党への期待感が再生したかのように見える。

その要因の一つに新政権が掲げた「最小不幸社会」があろう。ブータン政府が掲げた「国民総幸福量」を意識したと考えられるが、前政権が掲げた、情緒的で抽象的すぎた「友愛」に比べ、明快である。

国民の幸福感は多様であるが、「不幸」は一様だ。その大なるものが戦争であり、格差による貧困であろう。政府の国民に対する最大の責務はあらゆる戦争の抑止であり、貧困を余儀なくさせている不当な格差の排除である。これらは憲法9条（戦争の放棄）と25条（生存権）に明確にうたわれている。政治の国民に対する基本的責任である。

その国民の生活を第一とする民主党の首相が、沖縄の基地が住民の「不幸」を招いていると認めるならば、菅首相は「（前政権による）日米合意に基づいて」などとは言えないはずである。まさに、政権や首相の政策や理念を超えた国民の「不幸の最小化」を最重要課題として、政治生命を賭けて欲しい。

「朝日ジャーナル」を愛読し、安保反対運動の体験とともに高度経済成長の恩恵を共有してきた、連帯感の抱ける同世代人としての菅首相に、後世へ引き継げる働きを期待するのである。
(建築士, 60代, 岐阜県, 2010年06月16日)

投稿E 野菜が付ける花はみな美しい

7年前、庭付きの家に引っ越したのを機に家庭菜園を始めた。採れたての野菜を食卓に載せられるのはとてもせいたくなことだ。だが、野菜作りの楽しみはそれだけではない。やがて実をつけることを知らせる花や収穫期を終えた野菜が付ける花は、みな美しいのだ。

オクラの花はハイビスカスのように大きく黄色。紫シトウの紫色の花は、濃い緑の葉の色とのコントラストが絶妙である。ニラは小さくて白いかれんな花を咲かせる。人のイメージを花に例えるのが好きな知人に「エンドウの花」と言われたことがある。一見、地味だが、薄紫の花びらと一回り小さな濃い紫の花びらが合わさった花は味がある。エンドウは晩秋に種をまく。冬の寒さに耐えて成長し春先、一気に成長し、花を咲かせて実をつける。収穫期間は短く、あっけなく終わるが、花言葉は「必ずくる幸福」。あれから10年。今の私を花に例えれば何だろう。いま一度知人に聞いてみたい。

(翻訳業, 50代, 岐阜県, 2011年10月31日)

投稿Dは、投稿A, B, Cのような自らの日常生活の細部に潜む幸福を語るのではなく、国民や国家の幸福（およびその対立概念である不幸）が想定されている。

一方、投稿Eは、家庭菜園で自らが育てた野菜の花を題材として採り上げ、

その花の美と「幸福」という概念が関連づけられている。日常生活における自然の美に幸せを託し、それを元に自らの人生の幸福を振り返ろうとするものである。

大きな幸福と小さな幸福、大きな不幸と小さな不幸

ここで興味深いのは、投稿BやCでは、「(「幸せ」を含む広義の)「幸福」という語が、「大きい」、「小さい」という量的な程度を表す語で形容されているということである。さらに、この投稿では、「大きな幸福」が否定され、「小さな幸福」こそが「本当の幸福」だと位置づけられている。⁹

これは、「幸福」を大小の軸で捉えた場合、そのもっとも小さい方向の延長線上に幸福の反意語である「不幸」を位置づけられないことを意味している。

この点に関連して興味深いのが、投稿Dの「国民の幸福感は多様であるが、『不幸』は一様だ」という表現である。この表現は、トルストイ『アンナ・カレーニナ』の有名な冒頭の文章「幸福な家庭はどれも似たものだが、不幸な家庭はいずれもそれぞれに不幸なものである」¹⁰を想起させる。

この対称的な相違は、自分がどちらの側に立脚しているかを反映している。つまり、自分が立脚していない側の対象は、みな似たものとして、一様に見えるのに対し、自分が立脚している側の対象はそれぞれ多様に見える。そのため、トルストイが「不幸」の側に立って物語を進めようとしているのに対し、この投稿者は「幸福」の側に立って上記の内容を考察していると言える。

しかしながら、「(「幸福」の側に立った場合)なぜ不幸は一様に見えるのか？

⁹ 実際に今回の分析結果からも、「小さい」と「幸せ」の類似度(コサイン相関値)は0.0507と符号が正となっており、つまり、両者が同じ文脈に出現する傾向があることを示している。一方、「大きい」と「幸せ」の類似度は-0.0895と符号が負となっており、両者が同じ文脈に出現する傾向がないことを示している。

ここで、「幸せ」と意味的に関連を持つと思われる、例えば、「希望」という語を採り上げてみると、「小さい」と「希望」の類似度は-0.1035、「大きい」と「希望」の類似度は0.0216と符号が「幸せ」の場合とは反対となっており、「大きい」と「希望」は同じ文脈に出現する傾向があるが、「小さい」と「希望」は同じ文脈に出現する傾向がないことがわかる。

¹⁰ トルストイ、『アンナ・カレーニナ』(中村融訳、岩波文庫、1989改版)。

それは、小さな不幸を無視しているからである。

小さな幸福は当事者のみに感じられる幸福であり、それゆえ多様である。同様に、小さな不幸も当事者のみに感じられる不幸であり、それゆえ多様である。一方、大きな幸福は当事者以外にもわかる幸福であり、同様に、大きな不幸は当事者以外にもわかる不幸である。この結果、幸福の側に立脚する者は、自分が属さない側の小さな不幸を感知することができず、不幸の多様性を見失う。同様に、不幸の側に立脚する者は、自分が属さない側の小さな幸福を感知できず、幸福の多様性を見失う。

大きな幸福と小さな幸福、大きな不幸と小さな不幸、これらは量的な（連続的な）程度を表す形容詞で修飾されているが、その意味内容は質的にまったく異なったものである。それゆえ、大きな幸福の中の小さな不幸、大きな不幸の中の小さな幸福が存在しうる。

さらに、当事者における小さな幸福と小さな不幸との関係はどのようなものであろうか？

小さな幸福と小さな不幸は互いに変転しうる。例えば、平穏と退屈がしばしば入れ替わるように、小さな幸福と小さな不幸は互いに容易に変転しうる。

ここで留意すべきなのは、平穏は不幸が意識されてはじめて感じられるものであり、退屈は幸福を前提として感じられるものであることである。あるいは、次のように言うかもしれない。小さな幸福を得るためには不幸を前提として必要とし、また、小さな不幸が成立するためには幸福を前提として必要とすると。投稿Aで「人は何かを失わないと、その大切さに気付かない」と書かれているように、また、投稿Cで「今までの『当たり前』を『幸せ』だと」思えるためには「東日本大震災」という不幸の存在があったように、幸福と不幸は表裏一体の関係を持つ。

5. 結びにかえて

最後に、本稿での分析の知見をまとめておくことにしたい。

まず、通常、同義語として扱われる「幸福」と「幸せ」であるが、実際の文例では、(もちろん、まったく同義の語として使用されていることもあるが)異なった文脈で使用されている。「幸せ」が、個人的な感覚を含むかなり幅広い文脈で使用されるのに対し、「幸福」は、人類や国家、労働・仕事などの公的な文脈で使用される傾向がある。また、「幸福」に近い意味を持つと思われる「満足」や「楽しい／楽しさ」といった語はさらに異なった文脈で使われている。

次に、実際の文例を用いた分析では、「大きな(「幸せ」を含む広義の)幸福」と「小さな幸福」、「大きな不幸」と「小さな不幸」という表現に注目した。ここで言われている大きな幸福とは、経済的豊かさや身体の安全、円満な人間関係といった客観的な幸福度の指標とされるものが、個人の主観的な感覚の中に表れたものとみなすことができるが、本稿で幸福の大小を表す表現に注目したのは、幸福を論点とする調査や研究では、その基礎となる幸福度について、幸福の程度を4段階から11段階の選択肢で尋ねた結果を使用している場合が多いからである。¹¹

前述のとおり、大きな幸福と小さな幸福、あるいは、大きな不幸と小さな不幸は、質的に異なる。大きな幸福の中に小さな不幸が、大きな不幸の中に小さな幸福が存在しうる。さらには、小さな幸福こそが本当の幸福だとみなされる一方で、小さな幸福と小さな不幸は互いに変転しうる。政策課題としては大きな幸福／大きな不幸の次元しか扱えないであろうが、このような幸福の捉えがたさを十分に勘案することが必要であろう。

以上、本稿では、冒頭に述べたように、「幸福」というものが持つ捉えがたさを解明すべく考察を進めてきた。時には、不定形な様相を呈する複雑で繊細な有様を、その一端でも解明できたと信じて、結びとしたい。

¹¹ その一例として、「新成長戦略：『元気な日本』復活のシナリオ」でも参照されている内閣府「国民生活選好度調査」をあげることができる。

参考文献・資料

- 幸福度に関する研究会, 2011. 「幸福度に関する研究会報告：幸福度指標試案」, 内閣府.
- 第93代 (鳩山由紀夫) 内閣, 2009. 「新成長戦略 (基本方針)」.
- 第94代 (菅直人) 内閣, 2010. 「新成長戦略：『元気な日本』復活のシナリオ」.
- 内閣府, 2008, 『平成20年版 国民生活白書』.
- 内閣府, 1995-2010, 「国民生活選好度調査」,
(<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>).
- Deerwester, S., Dumais, S. T., Furnas, G. W., Landauer, T. K. and Harshman, R. 1990, “Indexing by latent semantic analysis”, *Journal of the American Society for Information Science*, 41, pp.391-407.
- Kudo, Taku and NTT, 2008. “MeCab: Yet Another Part-of-Speech and Morphological Analyzer”, version 0.97, (<http://mecab.sourceforge.net/>).
- Landauer, T. K., Foltz, P. W., and Laham, D. 1998. “Introduction to Latent Semantic Analysis”, *Discourse Processes*, 25, pp.259-284.
- R Development Core Team, 2009. “R: A language and environment for statistical computing”, version 2.10.1, R Foundation for Statistical Computing. (<http://www.R-project.org>).
- Wild, Fridolin, 2009. “lsa: Latent Semantic Analysis”, R package version 0.63-1, (<http://CRAN.R-project.org/package=lsa>).